

中心市街地の活性化に関するアンケート調査結果のまとめ

1. アンケート調査の趣旨

中心市街地をコンパクトな都市づくりの拠点として形成していくにあたって、中心市街地の現状や今後のあり方などについて、市民や事業者等の意識や意見を把握し、今後の中心市街地のまちづくりに活かしていくためにアンケート調査を実施した。

2. 対象者等

対象者	実施期間	配布対象者数	回答者数	回答率	実施主体
市民 1,000 人 (18 歳以上・無作為抽出)	令和 3 年 6/11～7/2	1,000	524※	52.4%	大牟田市
まちなか居住者	令和 3 年 6/29～7/16	1,392	417	30.0%	大牟田市中心市街地活性化協議会
「えるる」利用者	令和 3 年 8/4～8/9	-	219	-	大牟田市
有明工業高等専門学校の全学生	令和 3 年 8/16～8/27	1,112	445	40.0%	大牟田市
帝京大学福岡医療技術部の全学生	令和 3 年 8/16～8/27	1,281	257	20.1%	大牟田市
商店街振興組合加入者 (新栄町・銀座通・築町)	令和 3 年 8/20～8/31	54	46	85.2%	大牟田市

※ 市民 1,000 人対象アンケートの回答者数 524 のうち、居住区域別の内訳は、区域内居住者 25、区域外居住者 470、無回答 29 となっている。「3. 調査結果のまとめ」における「区域内居住者」の母数は、まちなか居住者対象アンケートの回答者数 417 に 25 を加えた 442、「区域外居住者」の母数は 470 となる。

※ 調査票は対象者ごとに異なっており、共通の項目、独自の項目がそれぞれある。

3. 調査結果・見方の留意点

- ・設問には単一回答と複数回答がある。単一回答の場合、比率 (%) はサンプル数を 100% として算出している。また比率は小数点第 2 位を四捨五入しているため合計が 100% にならない場合がある。
- ・複数回答の場合は、サンプル数に対する回答数の比率 (%) を表しており、回答者全体からみて、何%がその選択肢を選んでいるのかということになる。したがって、各選択肢の比率の合計は 100%にはならない場合がある。

4. 調査結果のまとめ

(1) 中心市街地の現況

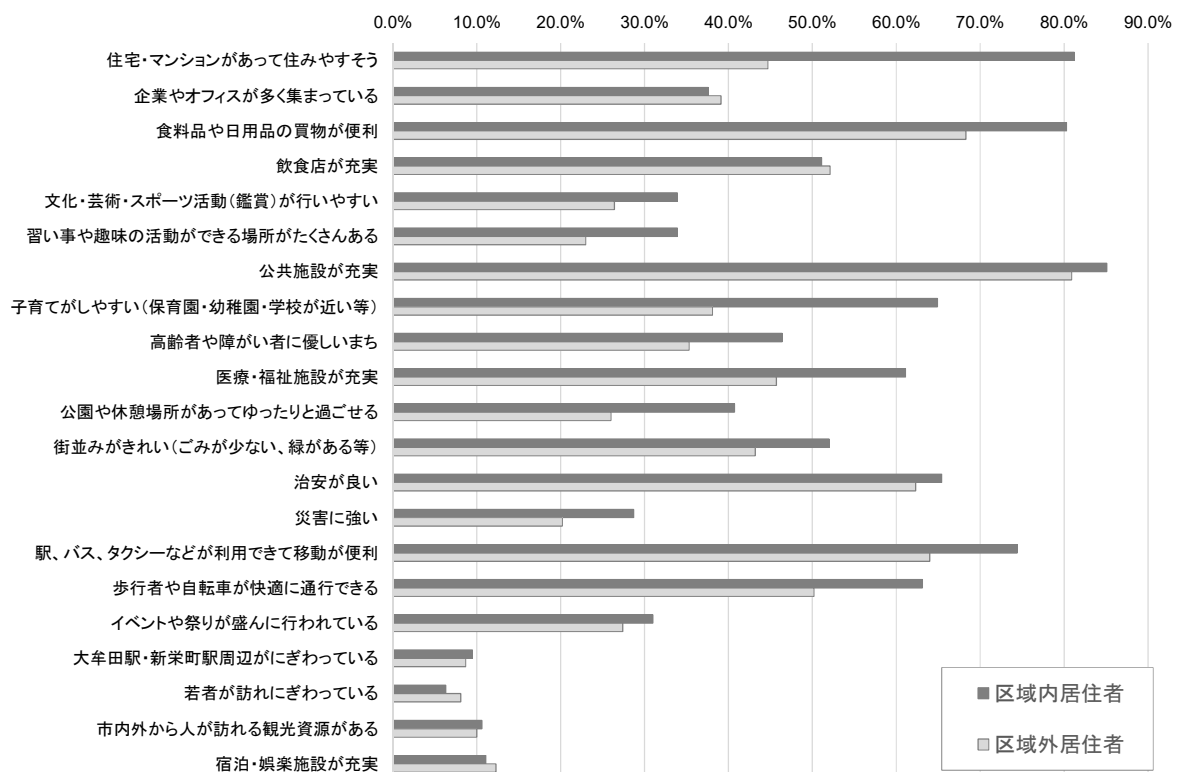
現在感じている中心市街地のイメージについての質問では、「非常にそう思う」、「まあそう思う」を合計した割合は、「公共施設が充実」が区域内居住者、区域外居住者ともに8割を超えて最も高く、「食料品や日用品の買物が便利」、「駅、バス、タクシーなどが利用できて移動が便利」、「治安がよい」が区域内外ともに上位となっている。

一方、「若者が訪れにぎわっている」、「大牟田駅・新栄町駅周辺がにぎわっている」は、区域内居住者・区域外居住者ともに1割以下となっており、多くの市民が「そう思わない」という結果となった。

「住宅・マンションがあって住みやすそう」は、区域内居住者81.2%、区域外居住者44.7%と区域内外で最も大きな差(36.5ポイント差)がある。次いで、「子育てがしやすい」が、区域内居住者64.9%、区域外居住者38.1%で26.8ポイントの差がある。

そのほか、「非常にそう思う」、「まあそう思う」を合計した割合は、全体的に区域内居住者の方が高くなっている。

■現在感じている中心市街地のイメージを教えてください。
(グラフの割合は、「非常にそう思う」、「まあそう思う」の合計値)

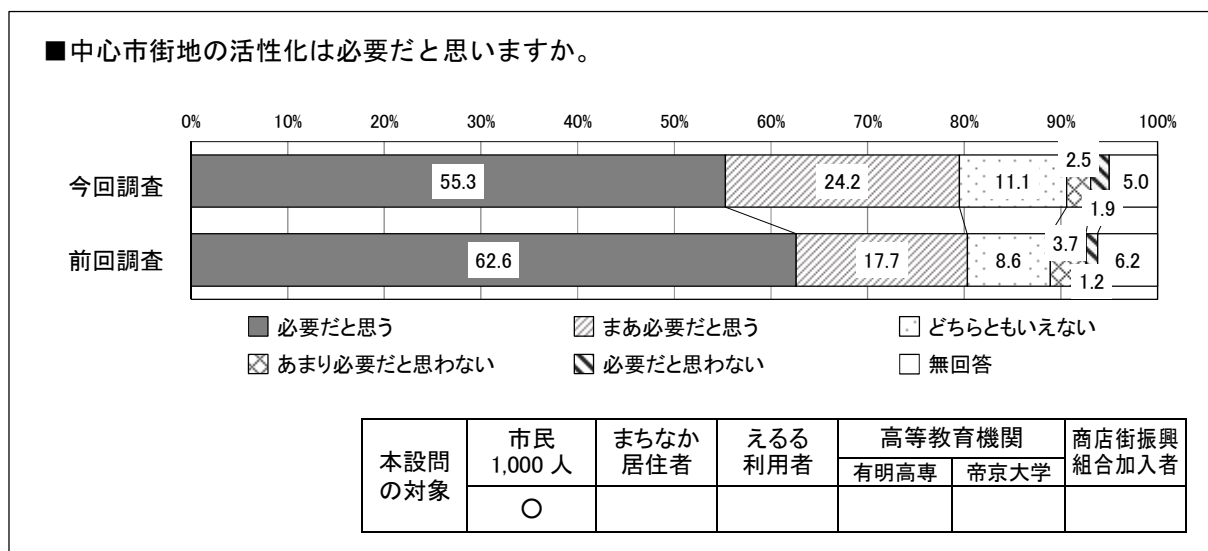


本設問の対象	市民 1,000人	まちなか 居住者	えるる 利用者	高等教育機関		商店街振興 組合加入者
	有明高専	帝京大学				
	○	○				

(2) 中心市街地の活性化

① 中心市街地活性化の必要性

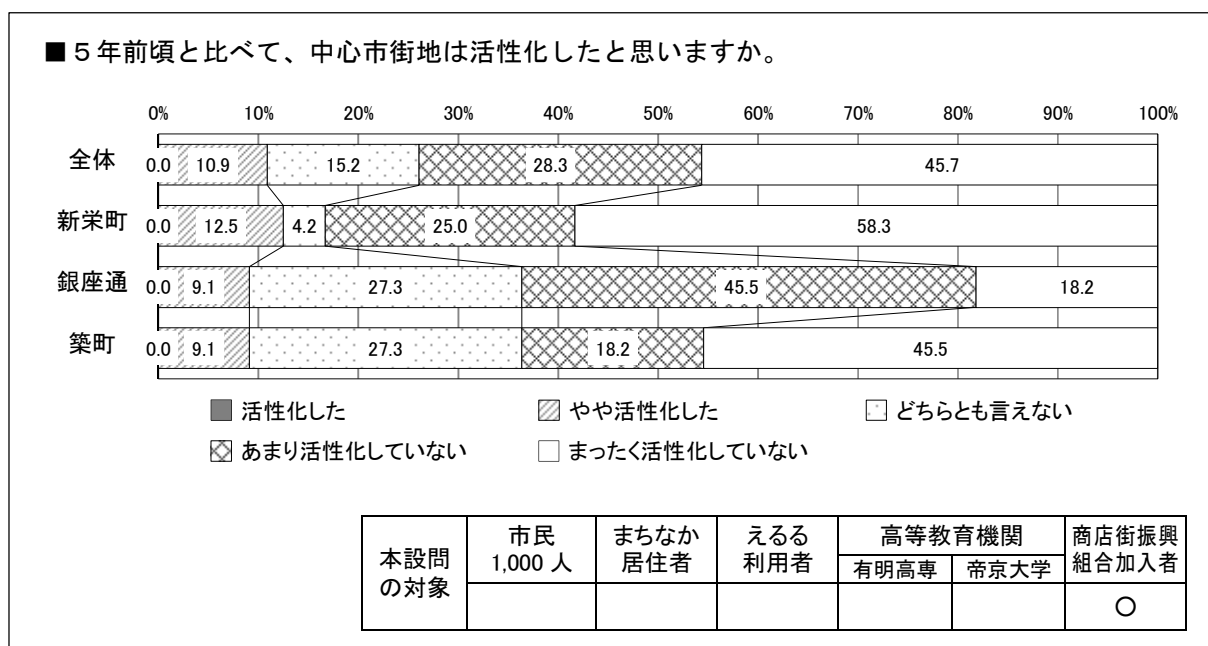
平成25年度の前回調査と比べて、「必要だと思う」は7.3ポイント減少したものの、「必要だと思う」、「まあ必要だと思う」を合計した割合(79.5%)は、前回調査(80.3%)とほぼ同じ数値となった。引き続き多くの市民にとって中心市街地活性化は必要だと認識されていることがうかがえる。



② 5年前頃と比べた中心市街地の状況

中心市街地の商店街振興組合加入者に5年前頃と比べて中心市街地は活性化したと思うかどうか尋ねたところ、「あまり活性化していない」、「まったく活性化していない」を合わせた割合は74.0%で、「活性化した」と回答した人は一人もいなかった。

空き店舗への出店が進んできた銀座通では「まったく活性化していない」の割合が18.2%と、新栄町(58.3%)、築町(45.5%)に比べて低くなっている。

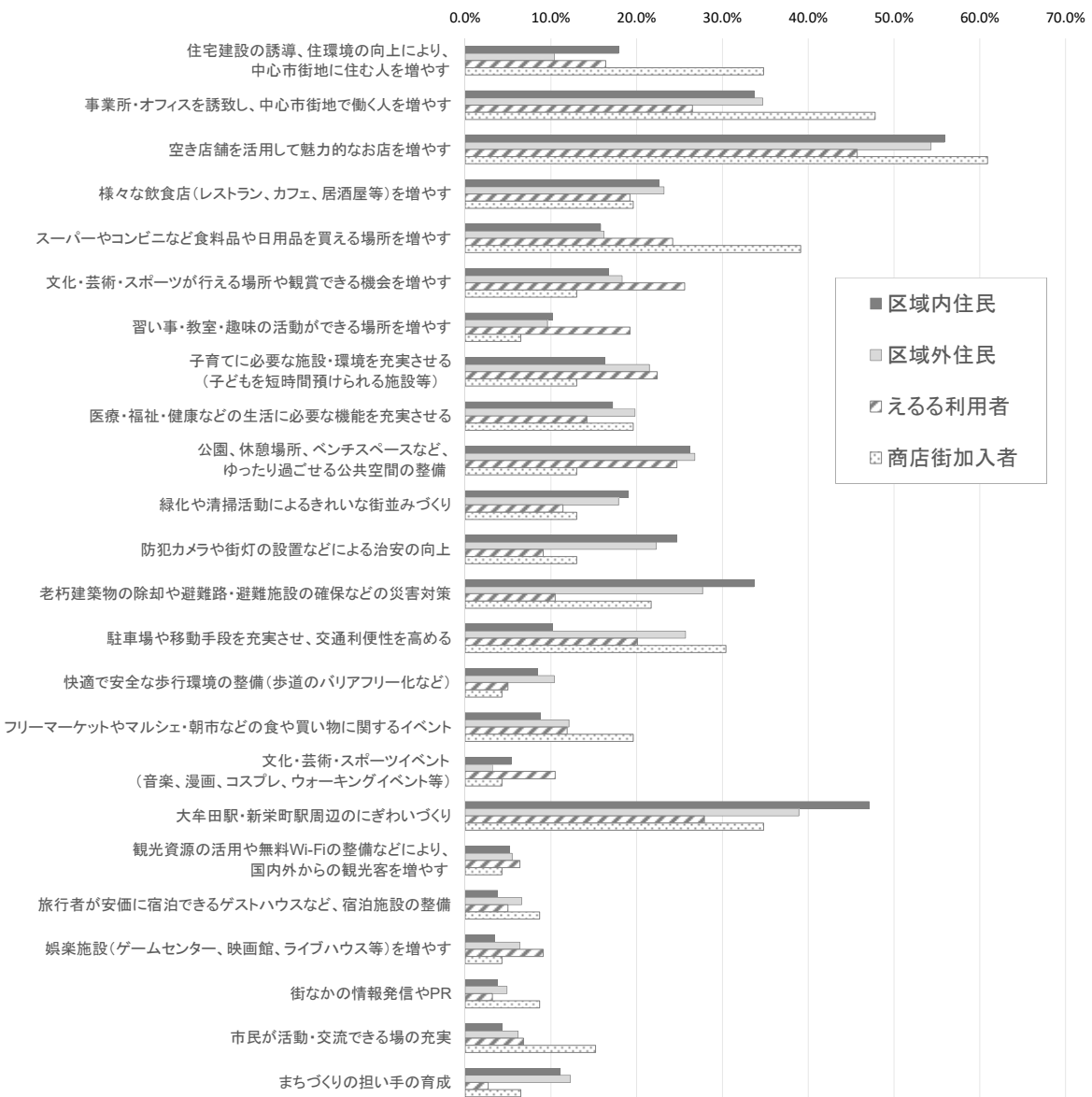


③中心市街地の活性化に必要な取組み

質問した全ての対象者において、「空き店舗を活用して魅力的なお店を増やす」の回答比率が最も高くなっており、空き店舗対策が重要な課題と認識されていることがうかがえる。次いで、「大牟田駅・新栄町周辺のにぎわいづくり」、「事務所・オフィスを誘致し、中心市街地で働く人を増やす」が全ての対象者で上位となっている。

商店街振興組合加入者においては、「住宅建設の誘導、住環境の向上により、中心市街地に住む人を増やす」、「事務所・オフィスを誘致し、中心市街地で働く人を増やす」、「スーパーやコンビニなど食料品や日用品を買える場所を増やす」の回答比率が、ほかの対象者に比べて高くなっている。

■中心市街地の活性化のために、今後どのような取組みが特に必要（重要）だと思いますか。



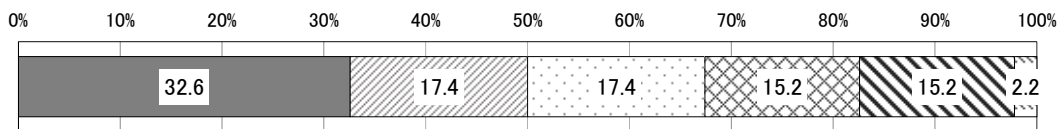
本設問の対象	市民 1,000人	まちなか 居住者	えるる 利用者	高等教育機関		商店街振興 組合加入者
				有明高専	帝京大学	
	○	○	○			○

④空き店舗対策の方向性

中心市街地の商店街振興組合加入者に今後の空き店舗対策の方向性について質問したところ、「商業施設の出店を積極的に進めていく必要がある」、「どちらかと言えば、商業施設の出店を進めていく方が望ましい」を合わせた割合が50.0%、「商業施設以外の活用を積極的に進めていく必要がある」、「どちらかと言えば、商業施設以外の活用を進めていく方が望ましい」を合わせた割合が32.6%と、商業施設の出店を望む意見の方が多いため、商業施設以外の活用を望んでいる商業者も一定数いることが分かった。

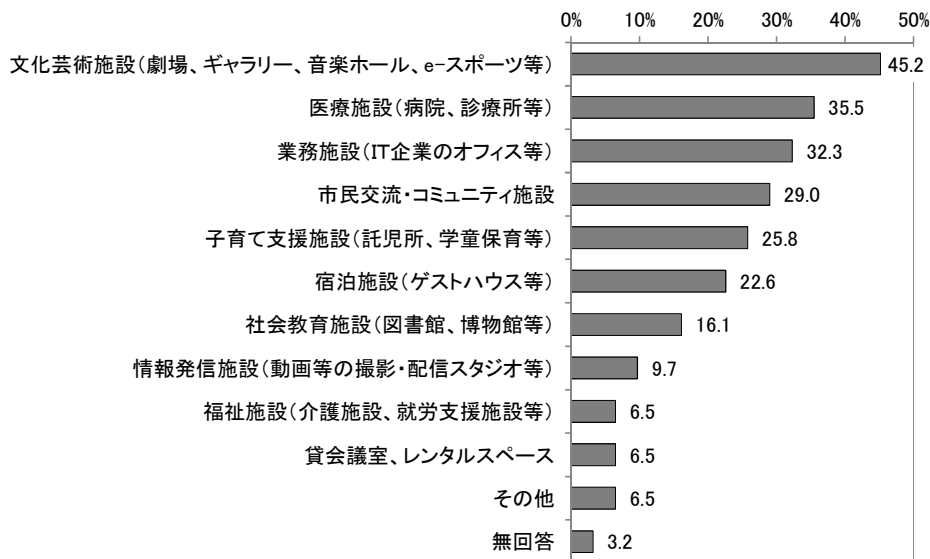
商業施設以外での活用方法については、「文化芸術施設（劇場、ギャラリー、音楽ホール、e-スポーツ等）」、「医療施設（病院、診療所等）」、「業務施設（IT企業のオフィス等）」が上位となった。

■今後の空き店舗対策の方向性について、どのようにお考えですか。



- 商業施設の出店を積極的に進めていく必要がある
- どちらかと言えば、商業施設の出店を進めていく方が望ましい
- どちらかと言えば、商業施設以外の活用を進めていく方が望ましい
- 商業施設以外の活用を積極的に進めていく必要がある
- 空き店舗の活用方法について特段の考えはない(どのように活用されてもいい)
- その他

■空き店舗がどのように活用されたら中心市街地の活性化につながるとお考えですか。



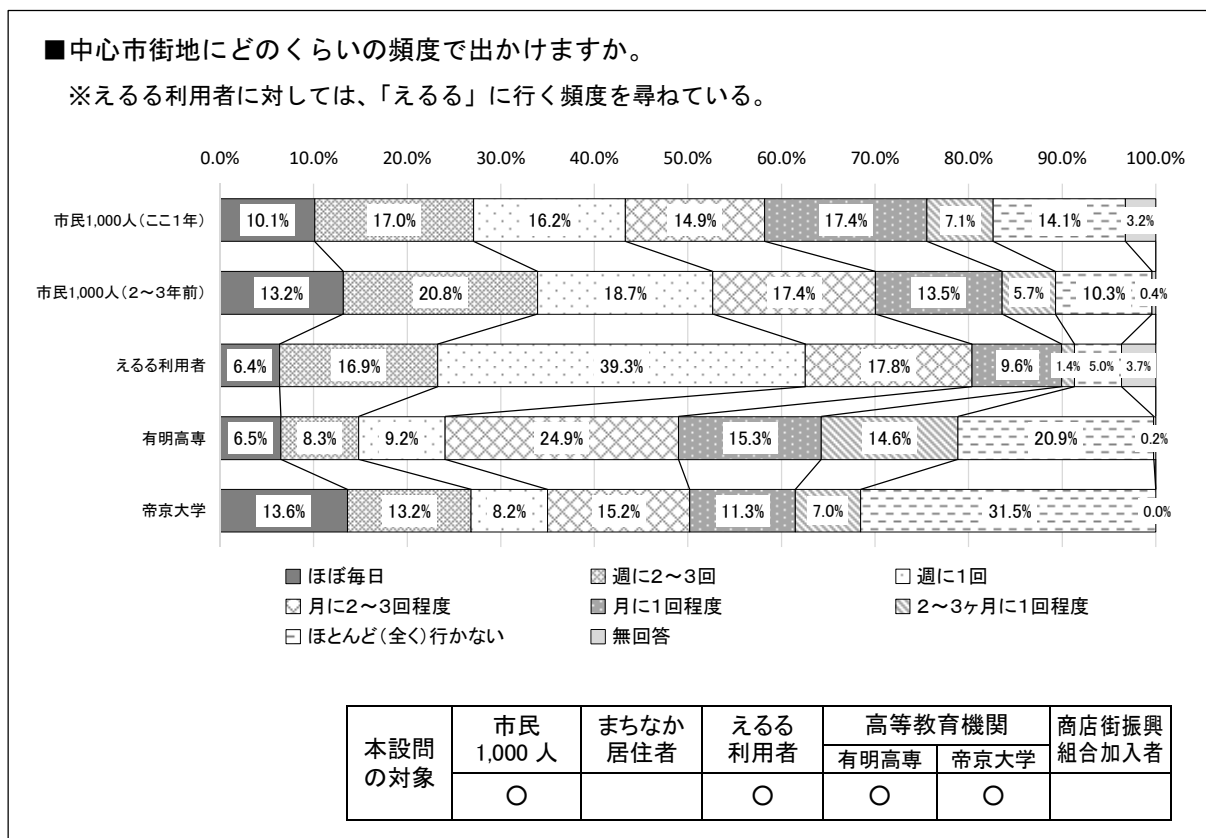
本設問の対象	市民 1,000人	まちなか 居住者	えるる 利用者	高等教育機関		商店街振興 組合加入者
				有明高専	帝京大学	
						○

(3) 中心市街地に出かける頻度と必要な場所

① 中心市街地に出かける頻度

中心市街地に出かける頻度については、新型コロナウイルス感染症の流行前後の違いを見るため、18歳以上の市民1,000人に対する調査において、ここ1年ぐらいの状況と、2～3年前の状況を質問した。その結果、「ほぼ毎日」、「週に2～3回」、「週に1回」を合わせた「週に1回以上来街」の回答比率は、2～3年前の52.7%に対し、ここ1年は43.3%となっており、飲食店の休業・時短営業や外出自粛等の影響がうかがえる。

えるる利用者、高等教育機関の学生に対しては普段の状況のみを質問した。その結果、「週に1回以上来街」の回答比率は、えるる利用者62.6%、有明高専24.0%、帝京大学35.0%、また、「ほとんど（全く）行かない」の回答比率は、有明高専20.9%、帝京大学31.5%となっており、学生が中心市街地にあまり出かけていない状況がうかがえる。



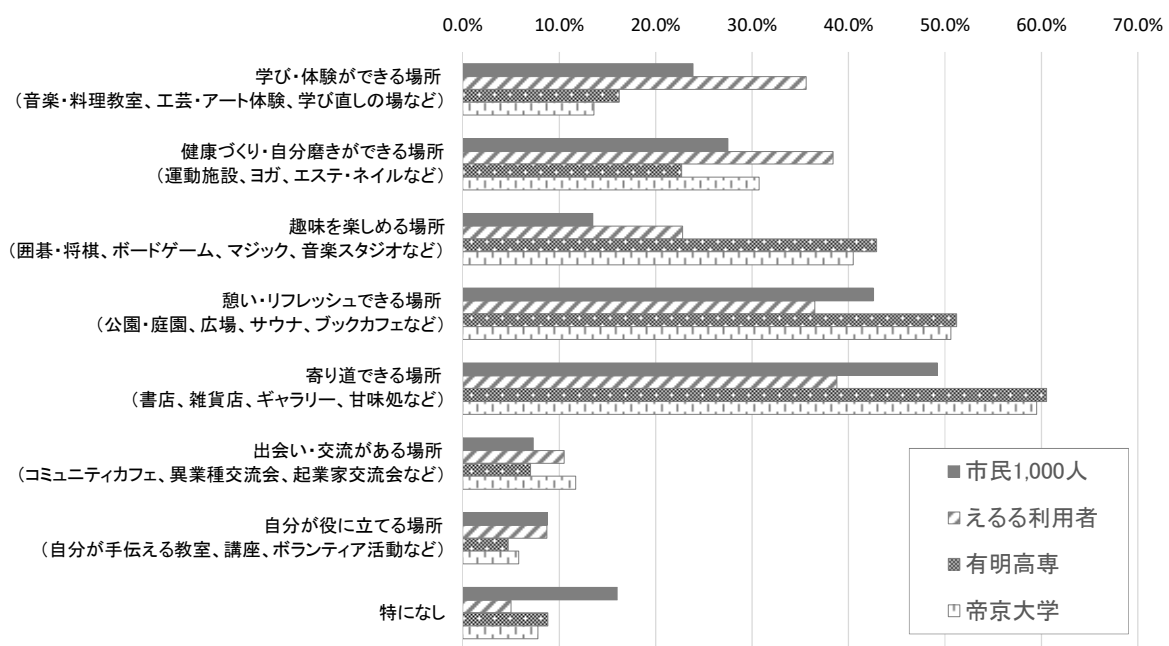
②中心市街地にもっと人が集まるために必要な場所

中心市街地にもっと人が集まるためにどのような場所があればよいか、近年“サードプレイス”と呼ばれている「自宅や職場・学校以外で時間を過ごす居心地の良い第3の場所」のニーズについて質問した。

その結果、質問した全ての対象者において、「寄り道できる場所（書店、雑貨店、ギャラリー、甘味処など）」の回答比率が最も高くなっており、仕事帰りや学校帰りに気軽に立ち寄れる場所のニーズの高さがうかがえる。次いで、「憩い・リフレッシュできる場所（公園・庭園、広場、サウナ、ブックカフェなど）」が18歳以上の市民1,000人及び有明高専及び帝京大学の学生で2位、えるる利用者で3位と多くの支持を集めた。

「趣味を楽しめる場所（囲碁・将棋、ボードゲーム、マジック、音楽スタジオなど）」については、18歳以上の市民1,000人13.5%、えるる利用者22.8%、有明高専42.9%、帝京大学40.5%と学生から多くの支持が集まった。

■どのような場所があれば中心市街地にもっと行きたくなる（人が集まる）と思いますか。



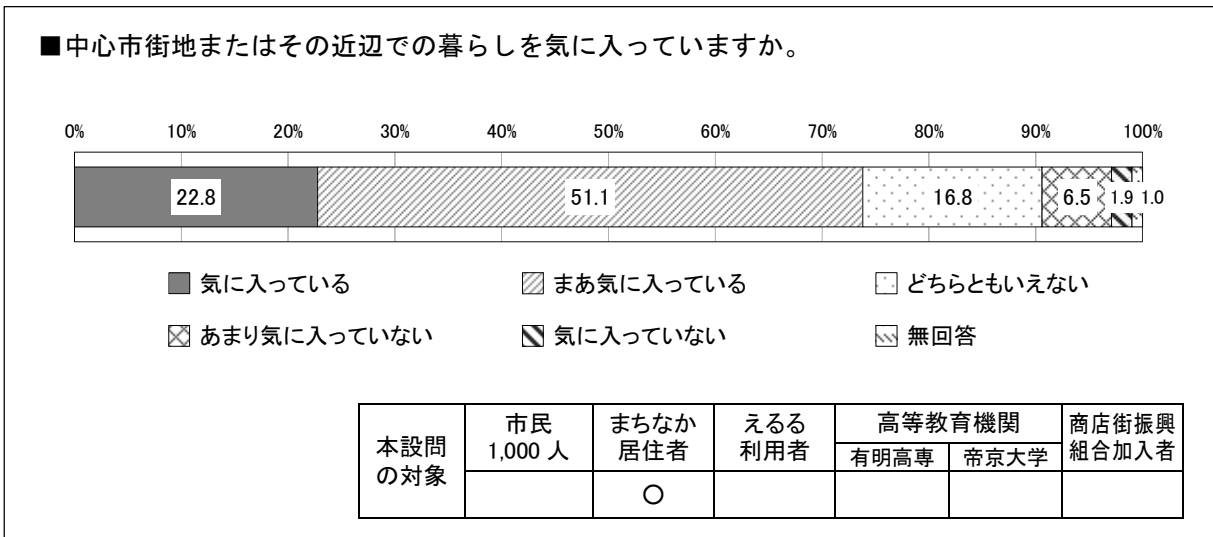
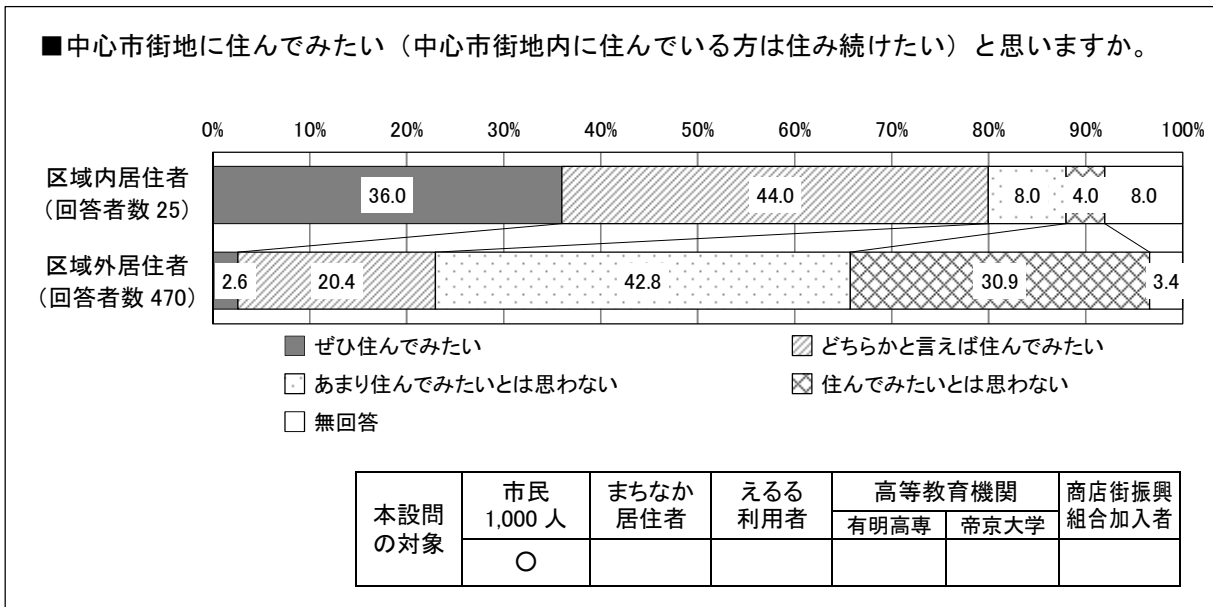
本設問の対象	市民1,000人	まちなか居住者	えるる利用者	高等教育機関		商店街振興組合加入者
				有明高専	帝京大学	
	○		○	○	○	

(4) 中心市街地での居住に関する意識

① 中心市街地の居留意向・居住満足度

18歳以上の市民1,000人に対し、中心市街地に住んでみたいか（中心市街地に住んでいる人は住み続けたいか）どうかを質問した結果、「ぜひ住んでみたい（住み続けたい）」、「どちらかといえば住んでみたい（住み続けたい）」を合わせた回答比率は、区域内居住者80.0%に対し、区域外居住者23.0%となった。また、まちなか居住者に対して中心市街地やその近辺での暮らしを気に入っているかどうかを質問した結果、「気に入っている」、「まあ気に入っている」を合わせた回答比率は73.9%となった。

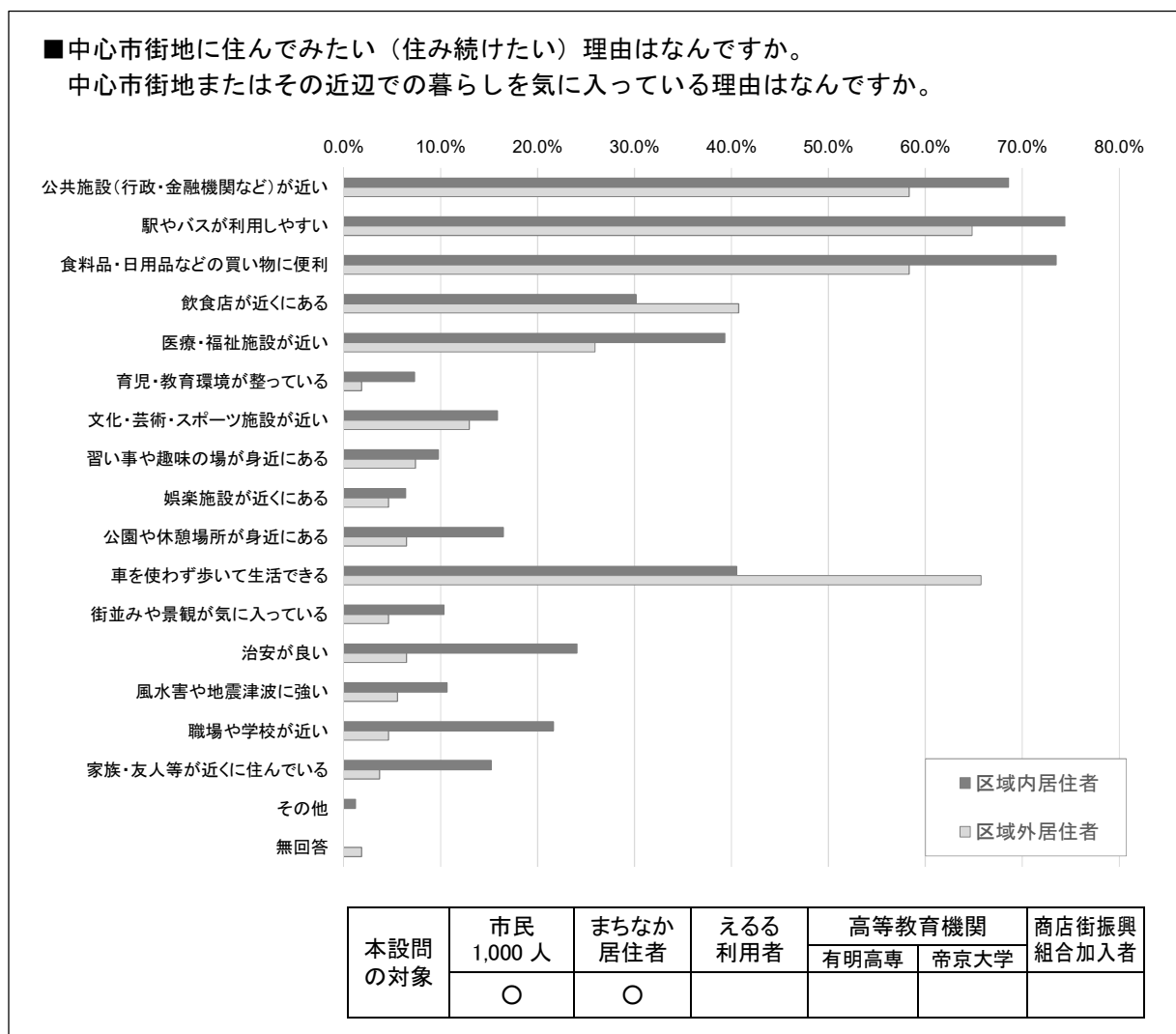
これらのことから、中心市街地居住者の7割～8割程度は現在の暮らしを気に入っており、住み続けたいと思っている状況がうかがえる。一方、区域外居住者は、「あまり住んでみたいとは思わない」、「住んでみたいとは思わない」を合わせた回答比率が73.7%となっており、中心市街地に住むことに魅力を感じていない人が多い状況がうかがえる。



②中心市街地に住んでみたい（住み続けたい）理由

中心市街地に「ぜひ住んでみたい」、「どちらかと言えば住んでみたい」と回答した人及び中心市街地またはその近辺での暮らしを「気に入っている」、「まあ気に入っている」と回答した人にその理由を質問した結果、「駅やバスが利用しやすい」、「食料品・日用品などの買い物に便利」、「公共施設（行政・金融機関など）が近い」が区域内居住者、区域外居住者の両方で上位となった。

「車を使わず歩いて生活できる」については、区域外居住者では65.7%と最も高くなっているのに対し、区域内居住者では40.5%と大きく差があり、区域外居住者にとってのイメージと、実際に住んでいる人の認識に大きな差がある状況がうかがえる。

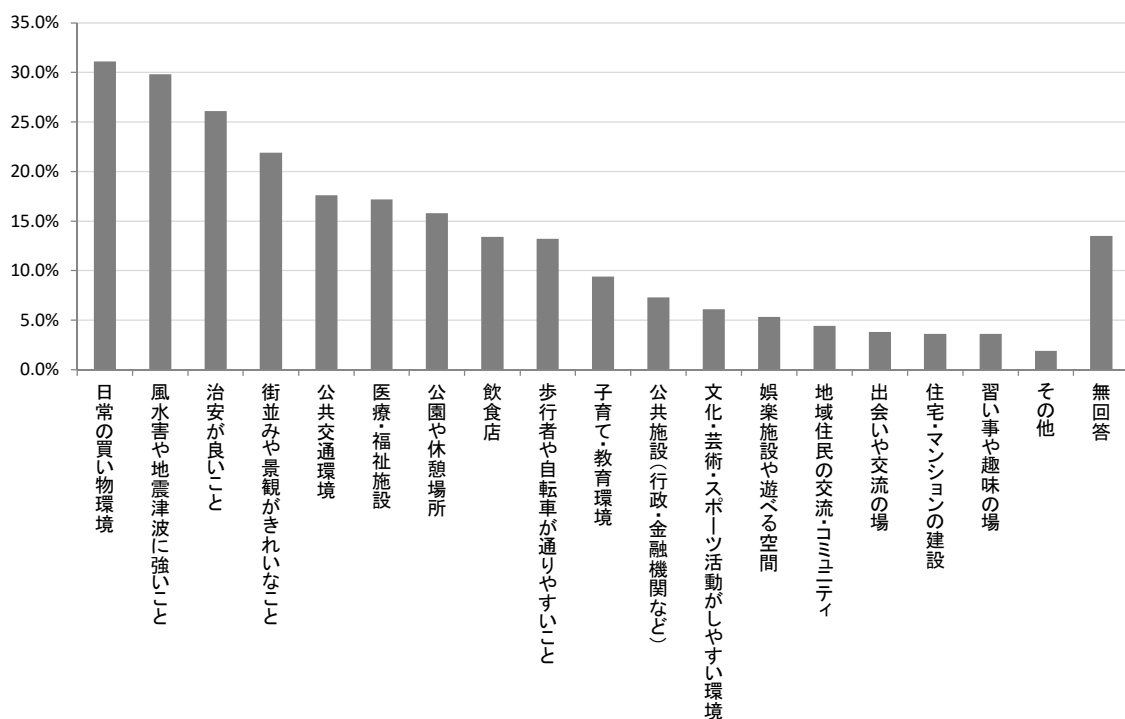


③中心市街地に住む（住み続ける）ために必要なこと

18歳以上の市民1,000人に対し、中心市街地に住む（住み続ける）ために今後充実してほしいことを質問した結果、「日常の買い物環境」の回答比率が31.1%と最も高く、次いで「風水害や地震津波に強いこと」29.8%、「治安が良いこと」26.1%、「街並みや景観がきれいなこと」21.9%となった。

「風水害や地震津波に強いこと」が2番目に高かったのは、令和2年7月豪雨をはじめ、近年多発する気象災害の影響がうかがえる。

■中心市街地に住む（住み続ける）ためには、今後何を充実してほしいですか（今何が不足していますか）。



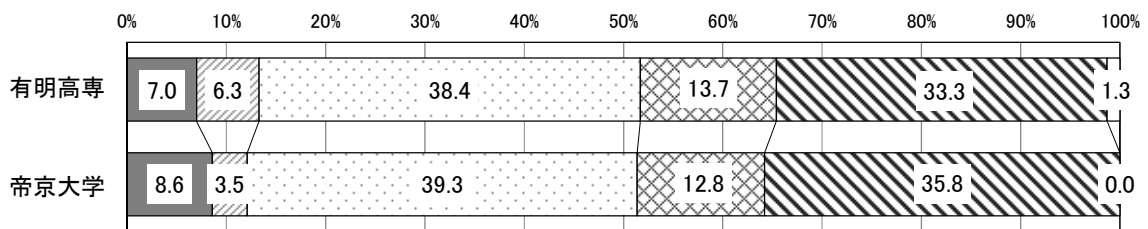
本設問の対象	市民 1,000人	まちなか 居住者	えるる 利用者	高等教育機関		商店街振興 組合加入者
				有明高専	帝京大学	
	○					

④人とのつながりがある住まいへの興味

近年、都心部の若年層を中心に利用が進んでいるシェアハウスやソーシャルアパートメント等の「人とのつながりがある住まい」について、本市における需要を探るため、高等教育機関の学生にシェアハウス等に関する興味について質問した。

「希望に合う物件があればすぐにでも住んでみたい」、「卒業して働き出したら住んでみたい」を合わせた「住んでみたい」層は、有明高専 13.3%、帝京大学 12.1%で1割強となった。また、「住んでみたい層」に「実際に住むかどうかは別にして、興味はある」も合わせた「住んでみたい・興味がある」層は、有明高専 51.7%、帝京大学 51.4%となっており、半数以上がシェアハウス等に興味を持っている状況がうかがえる。

■シェアハウスやソーシャルアパートメント等の「人とのつながりがある住まい」に興味がありますか。



- 希望に合う物件があればすぐにでも住んでみたい
- ▨ 卒業して働き出したら住んでみたい
- ▤ 実際に住むかどうかは別にして、興味はある
- ▧ どちらともいえない
- ▩ 特に興味はない
- 無回答

本設問の対象	市民 1,000人	まちなか 居住者	えるる 利用者	高等教育機関		商店街振興 組合加入者
				有明高専	帝京大学	
				○	○	

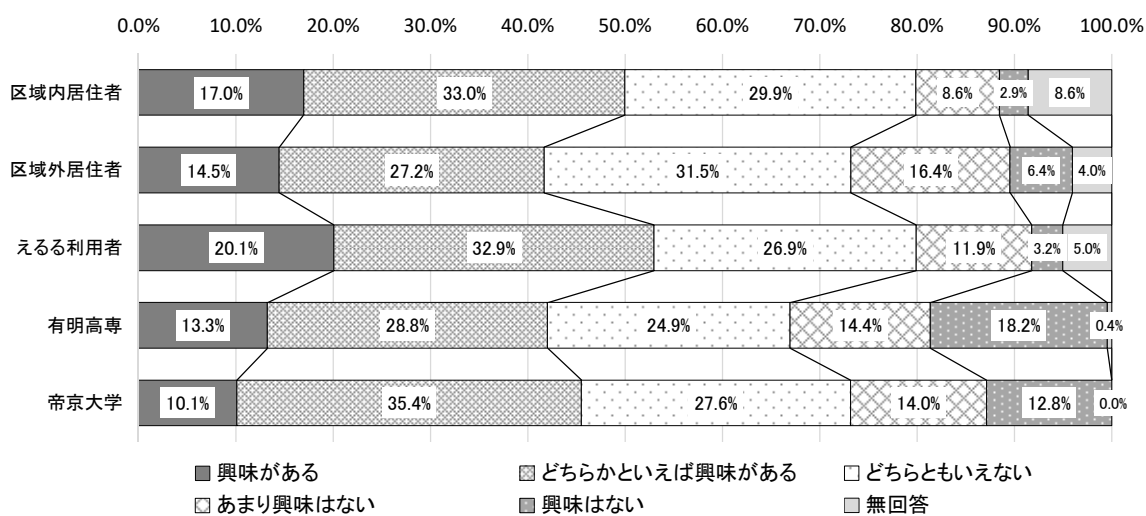
(5) まちづくり活動への意識

①まちづくり活動への興味

まちづくり活動に関する興味について質問したところ、「興味がある」、「どちらかといえば興味がある」を合わせた「興味あり」層の回答比率は、区域内居住者 50.0%、区域外居住者 41.7%、えるる利用者 53.0%、有明高専の学生 42.1%、帝京大学の学生 45.5% となった。全ての対象者で「興味あり」層は4割以上となり、区域内居住者やえるる利用者など、中心市街地に住んでいたり訪れたりしている人は5割以上となった。

■中心市街地のまちづくり活動に興味がありますか。

※有明高専、帝京大学の学生に対しては、単に「まちづくり活動」について質問している。

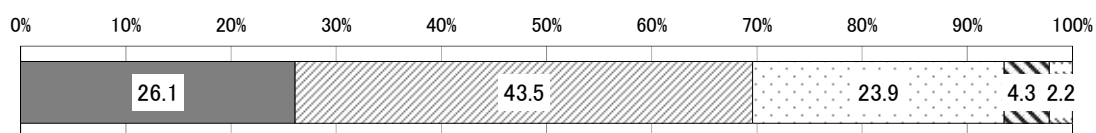


本設問の対象	市民 1,000人	まちなか 居住者	えるる 利用者	高等教育機関		商店街振興 組合加入者
				有明高専	帝京大学	
	○	○	○	○	○	

また、中心市街地の商店街振興組合加入者に対し、中心市街地の活性化に向けた取組みや活動への参加・協力意向について質問したところ、「所属している商店街の取組みには参加・協力していきたい」43.5%が最も高く、次いで「商店街の取組みに限らず、幅広く積極的に参加・協力していきたい」26.1%となり、それらを合わせた「中心市街地の活性化に向けた取組みに参加・協力していきたい」層の回答比率は69.6%となった。

一方で、「活性化の取組みや活動の必要性は理解するが、自店の経営等で忙しく、参加協力は難しい」は23.9%となり、参加・協力したくても難しい状況にある店主も一定数いることがうかがえる。

■ 中心市街地の活性化に向けた取組みや活動にあなた自身が参加・協力することについて、どのように思いますか。

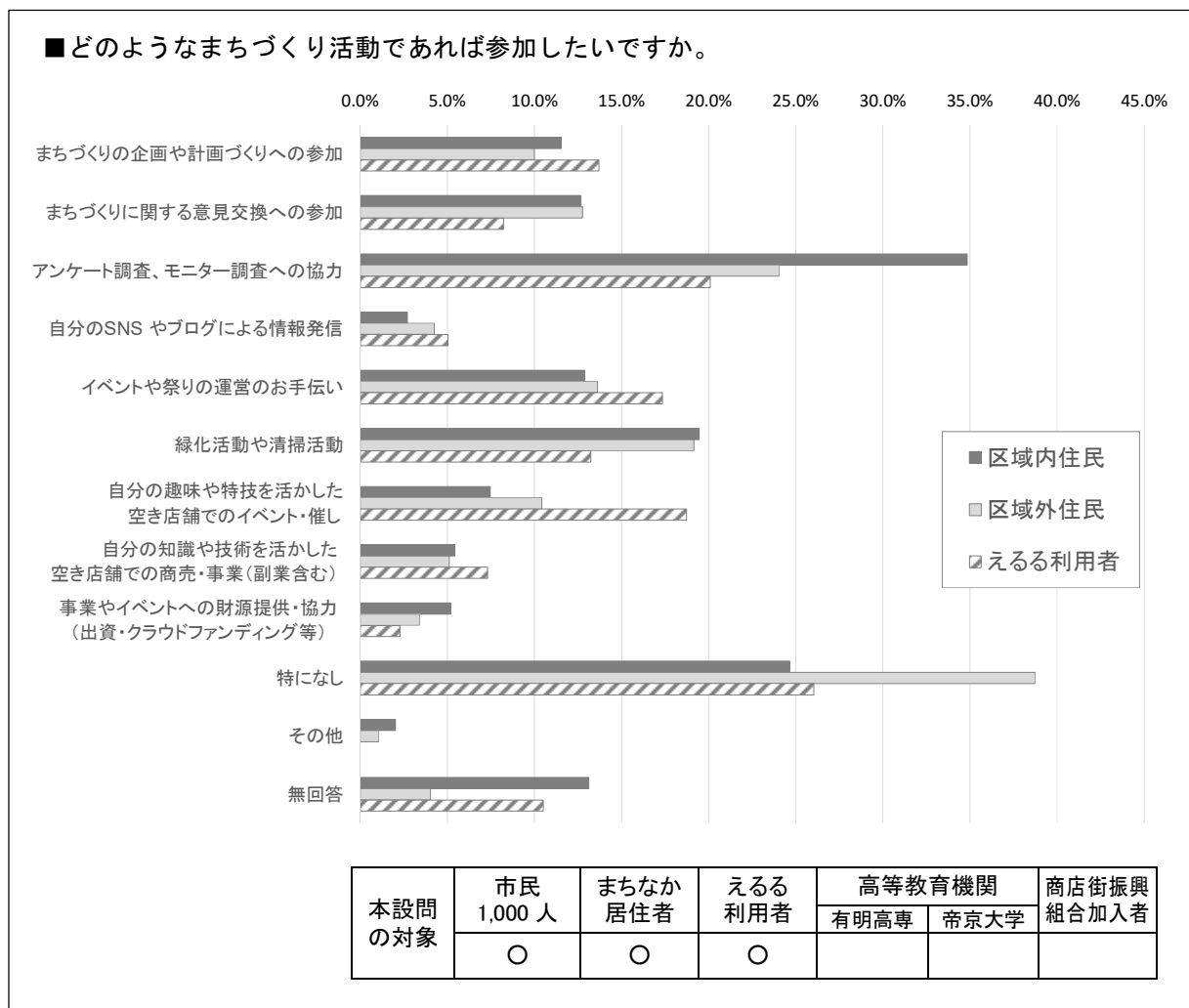


- 商店街の取組みに限らず、幅広く積極的に参加・協力していきたい
- ▨ 所属している商店街の取組みには参加・協力していきたい
- ▩ 活性化の取組みや活動の必要性は理解するが、自店の経営等で忙しく、参加・協力は難しい
- ⊠ 中心市街地の活性化に向けた取組みにはあまり関心がない
- ▧ その他
- 無回答

本設問の対象	市民 1,000人	まちなか 居住者	えるる 利用者	高等教育機関		商店街振興 組合加入者
				有明高専	帝京大学	
						○

②参加したいまちづくり活動

18歳以上の市民1,000人、まちなか居住者、えるる利用者に対し参加したいまちづくり活動について質問したところ、「特になし」を除いては、「アンケート調査、モニター調査への協力」が区域内居住者34.8%、区域外居住者24.0%、えるる利用者20.1%と全ての対象者で最も高くなった。次いで、「緑化活動や清掃活動」、「イベントや祭りの運営のお手伝い」がいずれの対象者でも15~20%程度となっている。

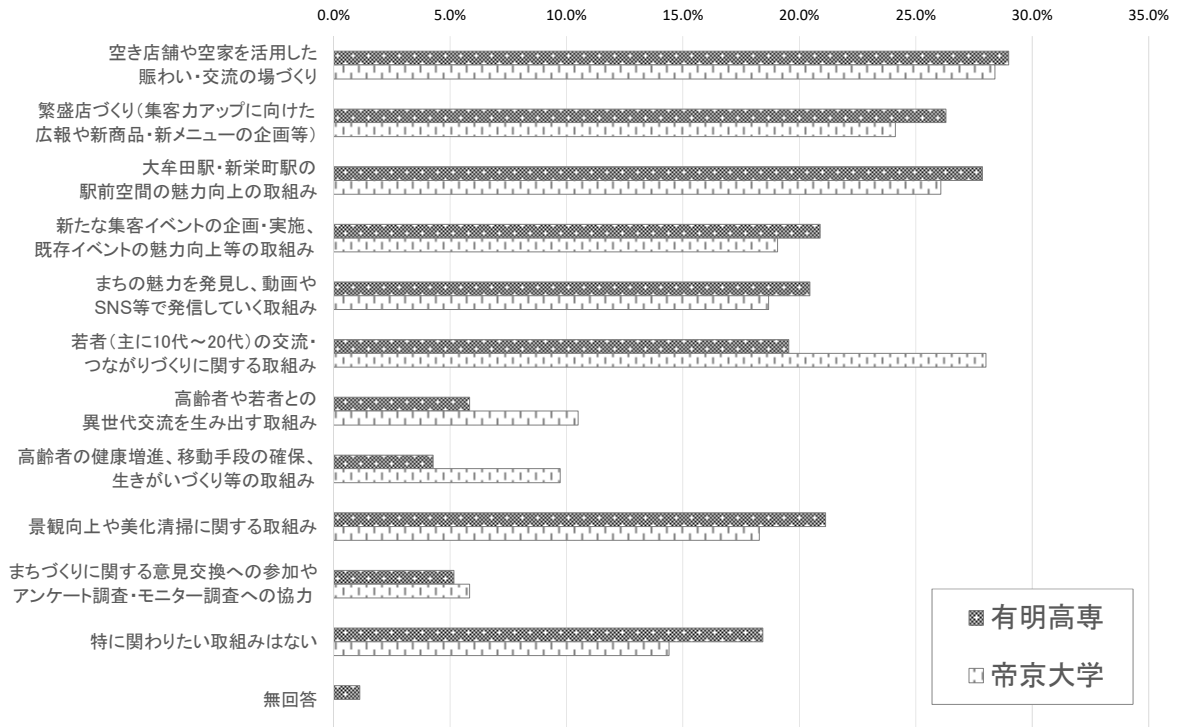


有明高専、帝京大学の学生に対しては、関わりたい取組みについて、より具体的に質問した結果、「空き店舗や空家を活用した賑わい・交流の場づくり」が有明高専の学生29.0%、帝京大学の学生28.4%でともに最も高くなっている。ほかに、「大牟田駅・新栄町駅の駅前空間の魅力向上の取組み」、「繁盛店づくり（集客力アップに向けた広報や新商品・新メニューの企画等）」が上位となっている。

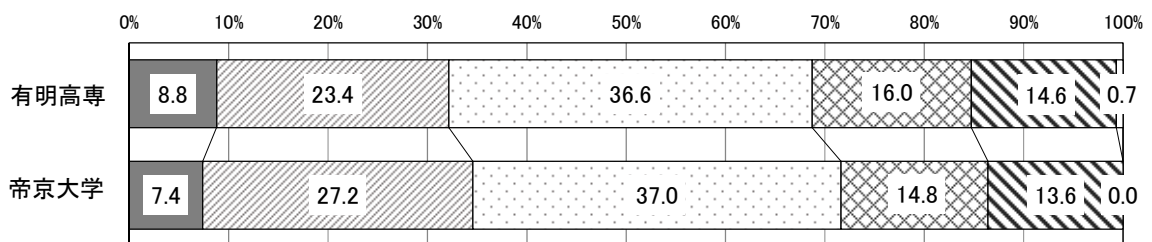
また、若い人の目線でまちの課題や解決策を議論し、実際に行政や民間事業者と協力して課題解決していくような取組みが実施されるとしたら参加してみたいかどうか質問

した結果、「ぜひ参加したい」、「どちらかといえば参加したい」を合わせた「参加したい」層は有明高専の学生 32.2%、帝京大学の学生 34.6%となった。3割を超える学生がまちの課題解決に向けた議論や取組みへの参加に興味を持っている状況がうかがえる。

■もし中心市街地のまちづくりに関わるとしたら、どのような取組みに関わりたいですか。



■若い人の目線でまちの課題や解決策を議論し、実際に行政や民間事業者と協力して課題解決していくような取組みが実施されるとしたら、参加してみたいですか。



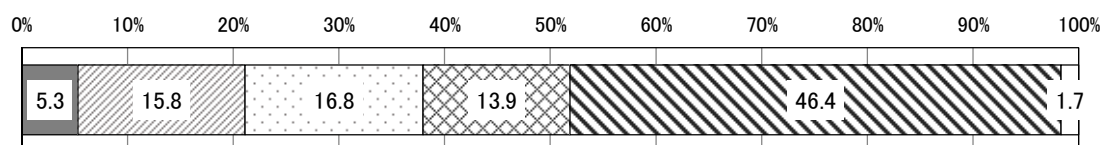
- ぜひ参加したい
- ▨ どちらかといえば参加したい
- どちらともいえない
- ▩ あまり参加したいとは思わない
- ▧ 参加したいとは思わない
- 無回答

本設問の対象	市民 1,000人	まちなか 居住者	えるる 利用者	高等教育機関		商店街振興 組合加入者
				有明高専	帝京大学	
				○	○	

(6) 中心市街地活性化基本計画の認知状況

18歳以上の市民1,000人に対し、中心市街地活性化基本計画のことを知っているかどうか質問した結果、「計画のことも取組みのことも全く知らない」46.4%が最も高くなっている。計画のことを「知っている」、「少し知っている」を合わせた回答比率は21.1%と2割強にとどまっており、中心市街地活性化基本計画についてはあまり認知されていない状況がうかがえる。

■大牟田市が現在「大牟田市中心市街地活性化基本計画」を策定し、中心市街地の活性化に取り組んでいることを知っていますか。



- 知っている
- 少し知っている
- 計画の内容は知らないが、計画があることはホームページや新聞等で見知っている
- 計画のことは知らないが、取組み(※1)は耳にしたり、参加したことがある
- 計画のことも取組みのことも全く知らない
- 無回答

(※1) … 「新栄町駅前地区市街地再開発事業」、「100円玉笑店街」、「おおむたまちゼミ」など

本設問の対象	市民 1,000人	まちなか 居住者	えるる 利用者	高等教育機関		商店街振興 組合加入者
				有明高専	帝京大学	
	○					